

会員の声

3名の会員の皆様に、松江高専に対する想いを綴っていただきました。



半世紀ぶりの母校訪問と思い出

森廣 直希 (2期・機械工学科)

私達の多くが還暦を迎えた2009年頃から同窓会をほぼ毎年、全国各地持ち回りで開催してきて昨年は、高専60周年記念行事(ホームカミングデー)もあることから松江で行いました。同窓会には11名が参加し、ホームカミングデーにはこのうち6名が参加しました。構内に大樹となる樹木がないせいか坂道を上がった校門、校舎の風景は昔と変わらず半世紀以上の時の経過を感じられませんでした。各人が自身の原点ともいえるこの場所での学びや活動に思いをめぐらせることができました。59年前に入学した当時、在校生は3学部の1期生と私達だけでしたので、未完途上の学び舎で、部活や体育祭、文化祭などは、一期生と共に原型となる枠組みを築いてきました。今でも覚えているのは、体育祭のために一期生とともに学科毎にひと月位かけて舞台を準備し、当日は応援団の指揮のもと、グラウンドで各種競技の仲間を応援したことです。



体育祭
1966年秋

授業では、中学までと難易度が違う物理、数学、統計、ドイツ語そして流体力学、金属材料、基礎ともいえる機械設計など戸惑いながら学習したこと、また第三角法を学びT定規を使った製図実習、実習工場での旋盤やフライス盤での機械加工ややすりや方刀での手加工の実習が思い出されました。

構内見学で、その実習工場にレーザー加工機やマシニングセンタなど、自動加工や精密加工の設備があり、更に2階には3Dプリンタや基板加工機など先端技術設備が備えられていたのには目を見張りました。学生たちに基礎的な機械加工技術とともに最新の加工技術の知識を習得してもらい次代の技術者に何が求められているかを知らしめる高専教育の一端を垣間見ました。松江高専が次代の技術を担う人材を着実に育成していく拠点として発展されることを祈念するものです。



2024年高専訪問した同窓生
(左から2人目 土木1期 佐々木 寛)

私たちがM2期同窓会 当初は20名近い参加でしたが近年、高齢化や家族の事情で参加人数が減って、後期高齢者となった昨年は11人でした。しかし、集まった誰もが健康を気遣いながらも助けるうちは参加すると意気込み、2025年の出雲の同窓会での再会を誓いました。



福島先生の思い出

機械工学科の福島先生と言えば有名な話はイチロー選手の奥様の弓子さんのお父さんという関係ではないでしょうか。亡くなられてもう何年も過ぎましたが、我々が教えを受けた昭和40年代前半の頃は、当時最新型のしかも黄色のトヨタマークIIハードトップに乗ってくるとてもカッコいい人であったという印象が強く残っています。おそらく何か学校行事があった日ではなかったかと思うのですが、その車に可愛いお嬢さん二人を乗せて来られたことがあって、それが教子さんと弓子さんの姉妹だったと、当時は知る由もないことが今にすれば思い当たります。

ちなみに教子さんは元NHKのキャスターで、TVでよく見かけました。弓子さんもTBSアナウンサー時代にイチローにインタビューしたことが二人の馴れ初めというエピソードがあります。肝心の勉強の方ですが、先生に教えを受けたのは熱力学と内燃機関工学と、いうハードすぎる科目で、中でもエンジン排気管中の気圧振動を解析するフーリエ関数の問題などは難解すぎて勉強が嫌いになってしまっただけでした。

その熱力学に社会人になってから大変お世話になる運命とは当時は思いもよらぬことでしたが、福島先生は新大橋の快にあった福島造船という松江でも有名な会社の御曹司で、メーカー勤務していたところを助教として招聘されたと聞いていました。気さくな人柄だがとてもせっかちで、べらめ一調の早口で話される姿が今でも目に浮かびます。

近況報告

大阪大学大学院 修士2年
佐藤 栄希 (31期・電子制御)



私は高専卒業後、大阪大学の電子情報工学科に編入し、現在は同大学院で半導体材料を用いた波長変換デバイスの研究に励んでいます。今でも同じ学科の友人と会うと、いつも高専時代の思い出話で盛り上がり。5年間の寮生活、仲間と夜を明かして仕上げた工学実験のレポート、厳しくも愛のあるご指導をいただいた電気回路の演習など、数えきれないほどの思い出が蘇ります。

高専での5年間の学びが、現在の活動の礎になっていると日々強く感じています。大学の専門科目や実験はもちろん、大学院での研究においても、高専で培った基礎知識が大いに役立っています。

課外活動では、高専生の進路選択をサポートする活動に力を入れています。私自身、大学編入の際に情報収集で苦労した経験から、後輩にはより多くの情報と選択肢を提供したい」という強い思いで、高専卒の大学生が集まる学生団体「Uni-KOSEN」にて、編入試験対策や大学生活の情報提供などを行っています。説明会に参加してくれた後輩が、実際に大学に編入して今度は運営側として活動に加わり、一緒に高専生コミュニティを盛り上げてくれることは、私にとって大きな喜びです。また、オンライン学習塾「高専テクノゼミ」では、講師として編入試験対策の授業を担当しています。

さらに、自身の就職活動の経験も後輩に共有したいと考え、高専卒の東大生が創業した株式会社OLIENT TECHというベンチャー企業で、高専生の就職活動をゼロから支援する新規事業開発にも従事しています。この事業の一環として全国の高専を訪問し、先生方や後輩たちとの繋がりを探めています。今後も高専生のポテンシャルを最大限引き出す活動に励んでいきます。高専で得た繋がりを大切に、私も微力ながら母校の発展に貢献していく所存です。同窓生の皆様の今後の益々のご活躍を祈念いたしまして、私の近況報告とさせていただきます。



[Uni-KOSEN]の編入説明会で登壇

村野 剛 (旧姓桑原) (2期・機械工学科)



福島先生 (内燃機関)

松江工業高等専門学校 同窓会 会報

第15号

2025.9.1発行

同窓会事務局

〒690-8518 鳥根県松江市西生馬町14-4 松江工業高等専門学校内
TEL: 0852-36-5111 FAX: 0852-36-5119 E-mail: dosokai-jimukyoku@matsue-ct.jp

<https://dosokai.matsue-ct.jp/>

新たな取り組みへのチャレンジ!



山陰地方が観測史上初めて6月中に梅雨が明け、厳しい暑さが続く今日この頃ではありますが、会員の皆様におかれましては健康に留意され、各界各分野において益々ご活躍のこととします。

昨年は、我が母校、松江高専が学校創立60周年を迎え、去る11月16日には学校主催の記念式典や記念植樹、ホームカミングデーなど、種々の催し物が開催され、本同窓会からは私をはじめ副会長、理事数名が出席し、退職された先生方や同窓会員の皆様と昔を懐かしみながら交流を深めることができました。

さて本同窓会は、昨年もお知らせしましたが、この60周年に合わせ大幅に理事会構成員の見直しを図り、新たな体制にてスタートを切ったところです。先般開催した今年度第1回の理事会では、30期代から50期代卒業の理事が数名加わったことにより、今まで以上に活発な議論が行われるようになり、今年度の事業計画や学校との関わり方、そして同窓会としての新たな取組みなどについて熱心に話し合いを行いました。なかでも本年10月11日、12日の両日において、松江が会場となって開催される第36回全国高等専門学校プログラミングコンテスト(本同窓会は後援)に合わせて、本同窓会関東

支部と松江をオンラインで繋いだ交流会を開催してはどうかとの新たなチャレンジ提案がありました。これまで遠く離れた場所にいる会員同士の交流は、なかなか実施することができませんでしたが、コロナ禍を経験したことにより生まれた、デジタル技術を活用した新たな交流スタイルとして、ぜひやってみようということになりました。詳細は同窓会ホームページ等でお知らせしたいと思いますので、ぜひこの機会に振るってご参加いただき会員同士の交流を深めていただければ幸いです。

このように幅広い世代が同窓会の理事会構成員になることで、これまでにない新たな発想からの提案が生まれ、会員相互の交流が益々深まる活性化した組織になっていくのではないかと大きな期待に胸を膨らませていきます。

私が会長を引き受けてから早いものでもう10年が過ぎます。果たして自分は同窓会のために何ができたのだろう、どうしたら会員相互の交流が図られ同窓会としての存在意義が示せるのだろうと自問自答する日々が続いていますが、新たなメンバーを加えた新体制で、本同窓会が会員の皆様にとって身近な存在に感じていただけるよう一層努めてまいりたいと考えております。

今後も引き続き、本同窓会の活動にご理解・ご協力を賜りますようお願いいたします。会報発行にあたっての挨拶とさせていただきます。

松江高専同窓会の皆様へのご挨拶

松江工業高等専門学校 校長 和田 清



日頃、皆様には格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

お陰様をもちまして、今年3月、本校は創立60周年を迎えました。創立60周年記念募金をはじめ、一連の記念事業(記念植樹、記念式典、祝賀会など)について、多大なるご尽力を賜り、誠にありがとうございました。お寄せいただきましたご厚志は、本校学生が充実した高専生活、様々な人材育成の取組への支援強化等に充てさせていただきます。本校に託された皆様の思いを心に馳せ、ご期待に違わぬよう関係者一同努力して参りますので、引き続き、ご支援等をよろしくお願い申し上げます。

先日、一般社団法人松江テクノフォーラム総会後、本校の就職状況説明する機会がありましたので、一部をご紹介いたします。令和6年度卒業生は183名で、就職58% (県内就職率24%)、進学42% (専攻科および大学編入学)であり、求人数は3,789件(県内企業6.3%)、単純計算すると、求人倍率35.7倍となります。当初から高専の求人倍率は有名ですが、高専制度創設60年を経て、全国高専の卒業生約50万人の活躍が評価された実績であること大変有り難く感じています。また、成長期の若い段階から講義に加えて、実験・実習・実技を通して、手や身体がよく動いて頭もよく働く高専教育、さらに、高専特有のロボットコンテスト(ロボコン)、プログラミングコンテ

スト(プロコン)、デザインコンペティション(デザコン)、スタートアップ教育など、様々なコンテストの活躍が社会へ浸透し、次世代の担い手への期待の現れでもあります。

この内、全国高専プロコンは、今年10月11日(土)、12日(日)、Ruby City Matsue(くにびきメッセ)にて開催します。全国から約1,200名の高専生や教職員等が集まり、パソコン等で実行可能なソフトウェア環境のもとで、「課題部門(ICTを活用した環境問題の解決をテーマ)」、「自由部門」、「競技部門」の3部門で競います。すでに、本校は予選通過し、全部門出場が決まっています。昨年度は、「競技部門」で初優勝(文部科学大臣賞等)、他部門は過去に最優秀賞を獲得しており、本校玄関の受賞飾り棚を輝かせています。さらに、来年9月には、本校が担当するNHKロボットコンテスト中国地区大会を鹿島体育館にて開催予定です。地元開催ですので、是非応援をよろしくお願い申し上げます。

高専は60年を経て、社会変革にチャレンジし、科学技術の成果が社会実装することで、人や社会にイノベーションをもたらす高度なエンジニアを育成する段階に入っています。これからも地域を知り世界を知り自らを知って、高い志と粘り強さを特長とする「高専スピリッツ」の教育で更なる飛躍をしたいと考えています。

最後になりましたが、皆様のご活躍とご健勝を祈念するとともに、引き続き、松江高専の教育・研究、社会連携を通じてより一層の努力をいたす所存ですので、本校の高度化、「国際化」等に協力のご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

学校訪問の申し込みフォームを開設しました

このたび、クラス会などの機会に卒業生が母校を訪問する際の窓口として、申込フォームを開設しました。以下のURLもしくは右のQRコードから「学校訪問申込フォーム」にアクセスして申し込みを行ってください。

松江高専ホームページ「卒業生の方へ」<https://www.matsue-ct.jp/graduates/>



編集後記

今回は松江高専創立60周年という節目の年にあたり、記念式典やホームカミングデーの開催の記事を掲載させていただきました。また卒業生からの寄稿など、多くの皆様のご協力をいただき、充実した紙面となりました。今年には松江市で全国高専プログラミングコンテストが開催されます。母校の活躍が全国から注目される機会であり、同窓生としても大いに応援したいところです。このような節目の機会や同窓会の活動を通じて、変わりゆく時代の中でも、母校と卒業生の絆が着実に深まっていることを実感しています。今後この会報が、皆さま同士のつながりや、母校と交流を支える一助となれば幸いです。

「会員の声」募集

会員の声にて、高専在学中の思い出や現況について記事を書いてみませんか。書いていただける方は、同窓会事務局までご連絡ください。

松江高専60周年記念行事

●創立60周年 ホームカミングデーと記念式典を開催

令和6年11月16日(土)、松江高専では創立60周年を記念し、行事が開催されました。

午前中には、松江高専と同窓会の共催でホームカミングデーが開かれ、卒業生とご家族19名にご参加いただきました。まず、電子制御工学科の今尾浩也教授(電気工学科16期生)より現在の学校の概要について説明が行われ、その後、学館館や実習工場(イノベーションハブ)、学生寮(直野寮)など校内を巡る見学ツアーが実施されました。

午後からは、島根県民会館にて創立60周年記念式典が開催され、来賓・卒業生・教職1,200名以上が出席しました。和田校長による式辞のほか、島根県知事、松江市長、文部科学省、島根大学長から祝辞が寄せられました。

その後の記念祝賀会では、同窓会長・陶山知政様が開宴の挨拶を行い、渡部修様(土木工学科1期生)、境真樹様(電子制御工学科12期生)と一般社団法人松江テクノフォーラム会長の1次貞司様(土木工学科12期生)らOBの皆様や来賓の皆様によるスピーチをしていただきました。

本行事を通じ、母校と同窓会の絆をあらためて感じる一日となりました。



記念式典の様子



祝賀会での同窓会長挨拶

今尾教授の説明
ホームカミングデー実習工場(イノベーションハブ)
の見学

より近く、より親しみやすく！
私たちは学生の皆さんの応援団です。

リターン・スタートアップ
お気軽にご相談ください！

技術講演会・文化講演会・交流会を通じて、
地域産業の交流と活性化を進めています。

松江高専専攻科生への研究助成を通じて、
地域産業の活性化につながる技術シーズと
地域人材の育成を図っています。

松江高専生を対象とした企業説明会を
実施して、地域人材の架け橋となります。

会 員 153 社 (県内企業)
賛助会員 11 社
個人会員 62 名 (うち高専教員 55 名)

2025年(令和7年)7月現在

松江テクノフォーラム事務局

〒690-8518 島根県松江市西生馬町14-4 (松江工業高等専門学校内)
TEL: 0852-36-5173 FAX: 0852-36-5119 ✉ mtf@tecnoforum001.onmicrosoft.com



同窓会この1年(2024年8月~2025年7月)

- 令和6年9月1日 同窓会報(第14号)発行
- 令和6年11月16日 松江高専創立60周年記念式典およびホームカミングデー開催
- 令和7年3月22日 令和6年度 第2回理事会@松江高専会議室
- 令和7年3月21日 第57回卒業式および第22回専攻科修了式@島根県民会館同窓会入会行事として「会長挨拶」と「入会に関するアナウンス」を実施しました。新規の入会者は、185名です。
- 令和7年6月28日 令和7年度 第1回理事会@松江高専会議室

※理事会資料は年に1回、各クラスの代議員に送付しております。

第36回高専プロコン松江大会 ~水都で創る、未来のイノベーション~

情報工学科 渡部 徹

全国高等専門学校プログラミングコンテスト(高専プロコン)は、全国の高専生たちがチームで挑む、年に一度のプログラミングの祭典です。学生たちは日々の学びを活かし、アイデア・技術力・チームワークを駆使して、創意工夫あふれるシステムを開発し、その完成度を競い合います。

コンテストは「課題部門」「自由部門」「競技部門」の3部門で構成されています。「課題部門」では与えられたテーマに沿った実用的なソリューションを開発、「自由部門」では学生自身がテーマを設定し、独創的なアイデアを形にします。「競技部門」は対戦形式で、与えられたルールのもとスピードや戦略を競う白熱のプログラミングバトルが展開されます。いずれの部門も、学生たちの柔軟な発想や最新技術への挑戦が随所に見られ、見る者を引き込む魅力にあふれています。

1990年に始まった高専プロコンは、毎年開催地を変えながら全国の高専を巡る一大イベントとなっており、海外からの参加チームも加わるなど、年々国際色も豊かになっています。情報処理技術やAI、IoTなど、最先端のテーマを学生ならではの視点で取り上げる姿勢も注目されています。

そして今年、第36回大会では、松江工業高等専門学校が主管校を務め、地元・松江市で初めての開催となります。キャッチコピーは、本校学生の公募により決定した「水都で創る、未来のイノベーション」。本校からは、予選を勝ち抜いた「課題部門」2チーム、「自由部門」1チーム、「競技部門」1チームが本選に出場します。

当日は、学生によるプレゼンや展示発表のほか、若き技術者たちが真剣勝負を繰り広げる競技の様模もご覧いただけます。現役学生のがんばりに触れて、「自分もあんな時代があったな…」と懐かしむもよし、後輩たちにエールを送るもよし。同窓生の皆様にとっても心に響く場になるはずです。観覧無料です。ぜひお誘い合わせのうえ、お気軽に足をお運びください。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

●大会概要

日時: 2025年10月11日(土)・12日(日)

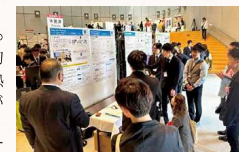
会場: 島根県立産業交流会館 くにびきメッセ

(松江市学園南1丁目2-1)

高専プロコン公式サイト: <https://www.procon.gr.jp/>



大会ポスター



前年度(奈良大会)のデモブースの様子



前年度(奈良大会)の競技部門の様子



第36回本選出場チーム

10月12日 同窓会交流会開催のお知らせ

松江高専同窓会では、今年度松江市で開催される全国高専プログラミングコンテストにあわせ、関東直野会(松江高専同窓会関東支部)との共催により、10月12日(日)夜に松江高専同窓会交流イベントを開催いたします。

今回は、松江会場(松江駅周辺を予定)と東京会場(都内を予定)をオンラインで結ぶ、2拠点同時開催を計画しております。

詳細および参加申し込みは、以下のホームページもしくは右のQRコードよりご確認ください。

<https://www.matsue-ct.tokyo/2025/07/autumn.html>

当日は、世代や地域を越えて同窓生が集まり、親睦を深める機会としく考えております。

皆さまのご参加を心よりお待ちしております。 問合せ先: 関東直野会(meeting-2025@matsue-ct.tokyo)



キッチンカー等の出店サービスを開始しました!

松江工業高等専門学校 総務課長 中村 誠

本年7月から翌年3月までの間、松江高専内にキッチンカー等の販売店を出店直しています。これは、食堂の改修期間中に食堂を学食内で提供することとしたため、これまでの学食利用者の食事を分散させることを主な目的として開始したものです。現在、約50店舗ほど登録があり、1日5店舗を上限として、出店予約申込順で出店できるようになっています。また、出店者には割引を求めるとし、学生や教職員への福利厚生としても機能させるようにしています。

